パノラマ結の木

パノラマが作り出す自由な風景の切り取り方は、機会ごとに異なる体験を提供する。それと同時に、全方向へ開かれた空間は、異なる性格の外部環境と接することで独自のゾーンを作り出す。

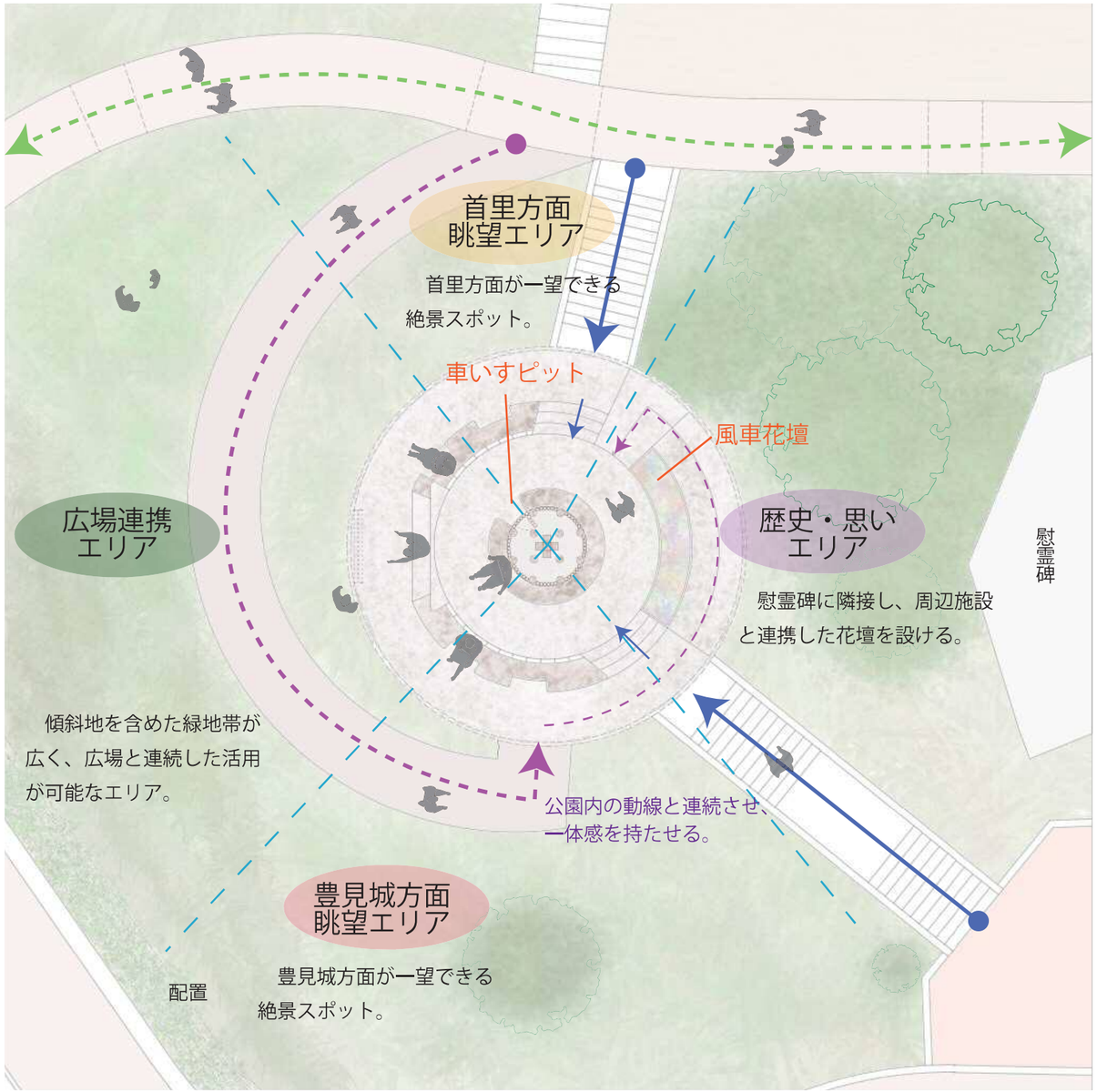
■　海軍壕公園の今と未来　～展望台の役割～

海軍壕公園は首里王朝時代には「火番森」が置かれ、第二次世界大戦末期には日本海軍の指令壕が設置され、激しい戦場となった歴史性を有する。現在は、戦跡公園として平和学習の場や、公園機能における利便性の向上に向けた整備が施されている。対象地である展望台は、歴史性を有する施設に近接し、「火番森」が置かれるほど眺望の優れた土地に設置される公園機能の利便性と歴史性を結ぶ役割を担う。

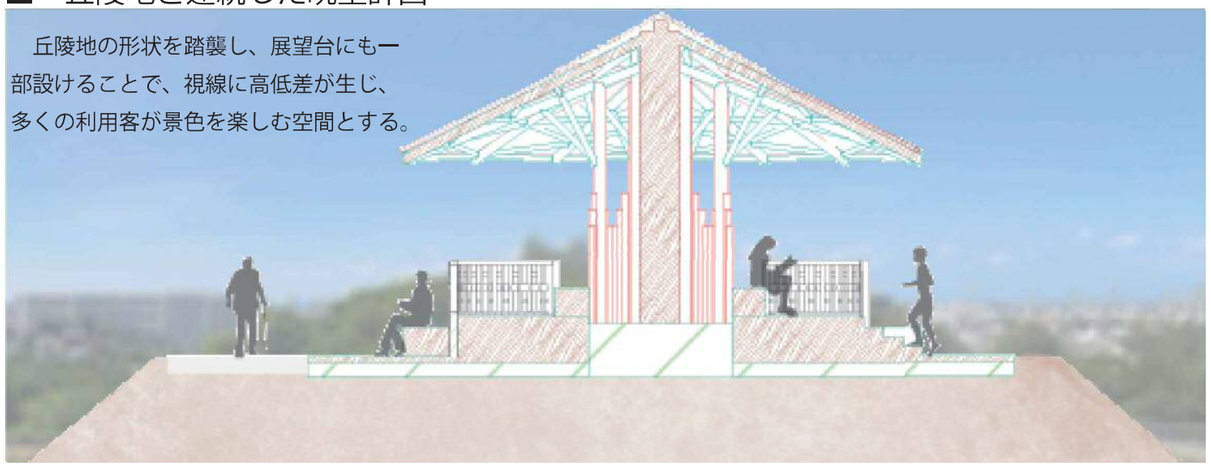
■　設計趣旨

対象地は周辺地域と比べ標高の高い土地に位置し、周りに障害物となるようなものが少ないことから眺望が期待できるが、それは一つの方角に限ったことではなくどこを見渡しても眺望が期待できるところが対象地の特徴である。そのため、本提案ではその特徴を活かすことのできるよう柱を中心に配置して放射状に屋根をかけ、段差をつけて２段とすることで、より多くの利用者が眺望を楽しむことができる計画とした。本対象地は、公園的側面及び歴史的側面を有する施設であるため、各方面に開放された展望台は方角ごとに異なる性格の空間と対峙し、その異なる空間同士を「結ぶ」役割を担うこととなる。本設計では、周辺住民の憩いの場となるような空間やバリアフリー対応等、公園的利便性を満たしつつ、体験を取り入れた平和学習の一端を担えるような空間整備により歴史性を取り込み、公園全体の周辺施設との連携を視野に入れた計画を提案する。

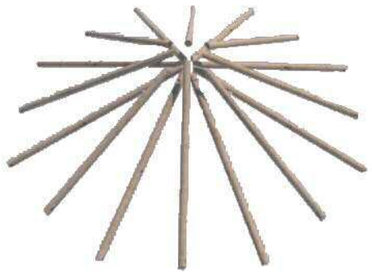
■ 平面計画　1 / 150



■ 丘陵地と連続した眺望計画



■ 屋根構成

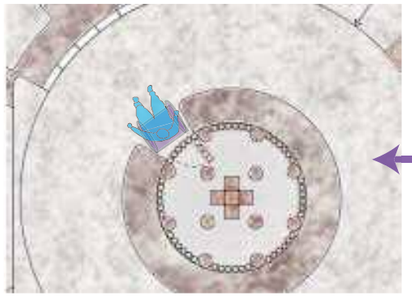


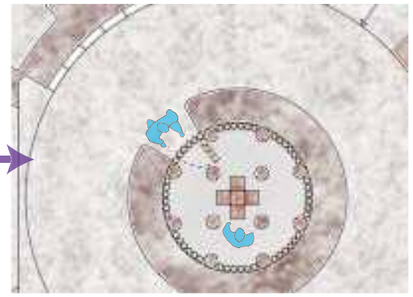
外周部に柱を設置しないよう、中央部に柱を設置して屋根を支える構造とした。梁をトラスで下方向から支えるとともに、上からも構造材で押さえることで、てこの原理を利用した構造とする。各梁間もトラス材で固定し、その上部に屋根下地材、屋根板をはり、樹木のような屋根形状を提案する。

■ 火番森

柱の取りつく中央部には、背もたれを設置するため、柱と比べて径の小さいルーバーを採用した。もともと「火番森」があったことを背景に「のろし」をモチーフとした。

■ 車いすピット兼管理用出口

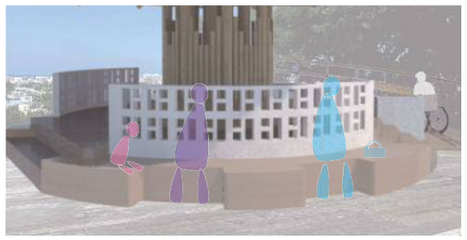


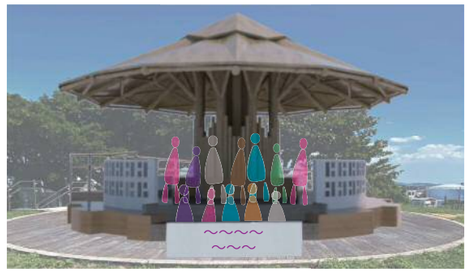


車いす使用者がスロープを登って来た際に、常設ベンチに移ることなく車いすのまま一般利用者と同じ景色を見ることができ、通行者の妨げとならないよう車いす用ピットを設置。

構造を支える柱が内部におさまっているため、車いす用のピット後方部分に開閉可能なスリット上のドアを設置し、点検時は作業員が柱部分に入り作業することが可能な空間とする。

■ ベンチ周辺における活動





ベンチは、持ち物管理や同伴者とのコミュニケーションの観点から凹凸を設け、西側には記念撮影を考慮したベンチを設置している。また、同伴の子供たちが周辺の丘陵地で遊ぶ姿も安全・安心の観点から見えるよう配慮した計画となっている。

■ 風車花壇

https://akari-bo-media.jp/posts/4145

展望台のスロープ部分に設置してある花壇にはペットボトルを活用して作る風車を突き刺す。平和学習の一環として近接する施設において製作体験を実施し、作成したものを展望台に植えることで、連携が生まれ、関心をもたらす狙いであり、雨水による劣化と管理の観点から風車を提案する。